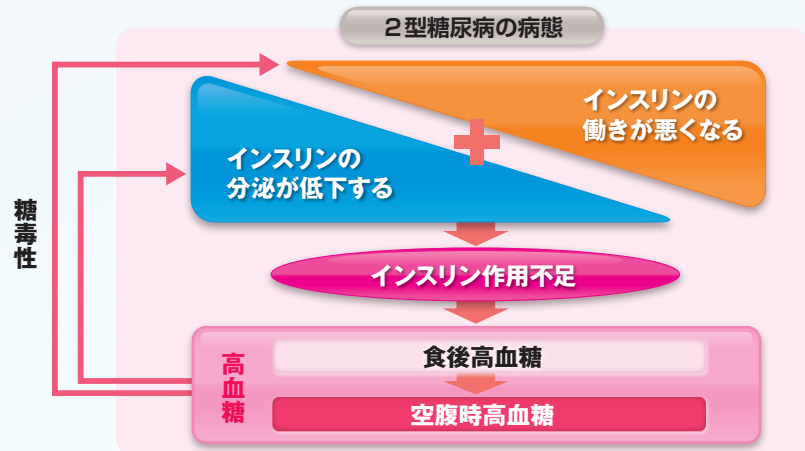


ピオグリタゾン含有製剤(アクトス錠・OD錠、ピオグリタゾン錠「武田テバ」、メタクト配合錠、ソニアス配合錠)を服用される患者さんへ

2型糖尿病とは

- 2型糖尿病は、インスリンの分泌が低下したり、働きが悪くなることによって発症します。



日本糖尿病学会編・著「糖尿病治療ガイド2018-2019」, p33, 文光堂, 2018 改変

2型糖尿病と合併症

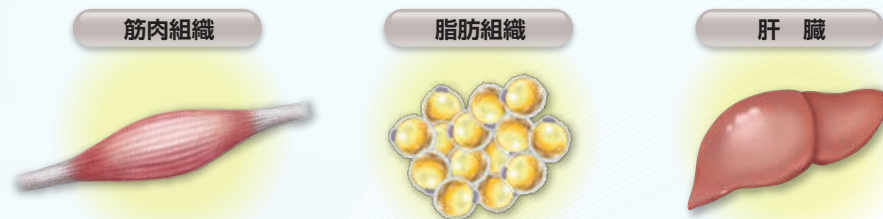
- 糖尿病になると血糖値が上昇し、眼や腎臓、神経を障害したり、心筋梗塞や脳卒中を引き起こすことが知られています。

- これらの合併症を防ぐためには、長期間良好な血糖コントロールを維持する必要があります。



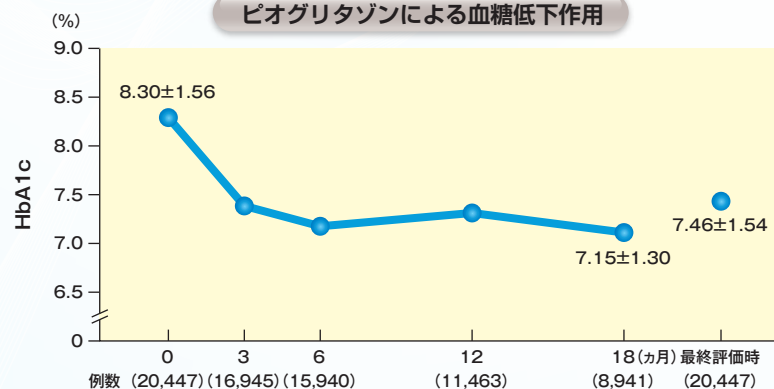
ピオグリタゾンとは

- ピオグリタゾンは筋肉組織や脂肪組織、肝臓などでインスリンの働きを高めて血糖値を下げるお薬です。



- このお薬を服用された国内の20,000例以上の患者さんにおいて、HbA1cは約1%低下し、その作用は長期にわたって持続しました。

ピオグリタゾンによる血糖低下作用



ご自身の判断でお薬を中断すると血糖コントロールが悪化して、合併症を引き起こす可能性があります。
新たにピオグリタゾン含有製剤を服用される患者さんは、主治医の説明を十分に聞いてご理解のうえ服用ください。



ピオグリタゾン含有製剤(アクトス錠・OD錠、ピオグリタゾン錠「武田テバ」、メタクト配合錠、ソニアス配合錠)を服用される患者さんへ

服用する際の留意点

❖ ピオグリタゾンと膀胱がんについて

海外の研究でピオグリタゾンを使用した場合に、この薬を使用していない場合に比べて膀胱がんを発症した患者さんがわずかに多かった*との報告がありますが、ピオグリタゾンが膀胱がんの発生原因と断定されたわけではありません。

*米国の2型糖尿病患者さんの場合、1万人あたり1年で1~2人多かった。

❖ アクトス等を処方してもらうときに何を主治医に伝えたいですか？

膀胱がんの治療を受けている場合、または膀胱がんの既往歴がある場合は主治医に伝えてください。

❖ 服薬中、服薬をやめた後は何に気をつけたらいいですか？

血尿や頻尿、排尿痛の症状があらわれた場合はすぐに主治医に伝えてください。

膀胱がんとは

膀胱の粘膜に起こるがんです。日本人では10万人あたり1年で6.9人発症しています(2006年)。膀胱がんの発症率は、胃がんや肺がんに比べて低く、欧米人(欧州:15.6例/10万人年(2008年)、米国:21.1例/10万人年(2004年~2008年))に比べると日本人の発症率は低いことが知られています。

● どのような症状があるのですか？

血尿、ときには頻尿、排尿痛などの症状があらわれることがあります。(これらの症状は膀胱がん以外でもあらわれることがあります)

● どのような人がなりやすいのですか？

高齢者、特に男性に多いことが知られており、また喫煙習慣のある人は、ない人に比べて2~4倍程度膀胱がんになりやすいといわれています。糖尿病の人は、糖尿病ではない人に比べ、膀胱がんになる頻度が高いとの報告があります。

低血糖症状を起こすことがあります

低血糖症状は、空腹時に起こり、食べ物をとると急によくなるのが特徴です。

❖ 低血糖症状とは

血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い空腹感、動悸、力のぬけた感じ、冷汗、手足のふるえ、眼のちらつきが起こります。また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄が違うような異常な行動をとることもあります。ひどい場合には、けいれんを起こしたり意識を失うこともあります。

❖ 低血糖症状が起こったら

- 低血糖症状がもし起こったら危険な状態ですから、軽いうちに治さなければなりません。軽いうちは糖分(砂糖、ブドウ糖など)をとると治ります。したがって、日頃から常に糖分を持ち歩き、その場ですぐ糖分をとれるようにしておく必要があります。なお、 α -グルコシダーゼ阻害剤(ボグリボースやアカルボース、ミグリトール)を服用している場合は、ブドウ糖をとってください。
- 低血糖症状を起こした場合は、必ず早めに主治医に報告してください。

❖ 低血糖症状を起こさないために

- 薬の量やのみ方は主治医・薬剤師の指導を守りましょう。
- 食事療法、運動療法はきちんと守ることが大切です。
- 食事時刻の遅れ、食事量または炭水化物の摂取が少ない食事、激しい運動、空腹時の運動は避けるようにしましょう。

そのほかに、次のような症状があらわれることがあります

全製剤共通

- むくみ、急激な体重増加、息切れ、動悸
- 食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、全身倦怠感
- 脱力感、筋肉痛、褐色の尿
- みぞおちの痛み、吐き気、黒色の便
- 発熱、咳、息苦しい

メタクト配合錠

- 悪心・嘔吐、腹痛、下痢などの胃腸症状

ソニアス配合錠

- 出血傾向

お薬には期待される効果だけでなく、時として副作用があらわれることがあります。お薬を服用して体調がおかしいと感じたら、すぐに主治医や薬剤師、看護師に相談してください。

